活動レポート　2021．7．17

# 2021年第2回不登校セミナー「不登校体験を語る～そのとき私は～」

## 2021年7月17日（土）10：00－12：00　城南市民センター

昨年よりコロナ感染症の影響で、予定のセミナーが中止になったり、zoom での開催になったりしていましたので、久しぶりに会場に人が集ってのセミナーとなり、参加者の方や関係者の方、41名の方の参加がありました。

長阿彌実行委員長の基調講演「不登校体験談から学ぶ」を聴いた後に、実際に不登校を経験した二人の若者から、不登校の体験と現在について語られました。

基調講演で心に残ったのは、『不登校は子どもの無言のSOSです。そのような子どもの声に耳を傾けること、「聴く」ということはどういうことなのか。私たちは聴いているようで聴いていないのでは？』というこの言葉でした。耳が痛い話でした。自分自身、真摯な気持ちで子ども達と向き合えていたのだろうか？　自分の思うようにしようとしていなかったか？など自分の子育てについて考えさせられました。

基調講演でまず「聴く」ということをレクチャーした後、不登校経験のある、高校1年生と20歳というまだ若い二人（N さん、T さん）からお話を聴くことができました。小学生や中学生の頃から不登校になった二人に共通していたのは「なぜ、学校に行くのだろう（行く必要があるのだろう）？」という学校教育にたいする疑問、そしてそれがその後の不登校につながっていったことでした。

N さんは現在ネットで学べる高校に進学し、高校生でありながら地域での子育て支援の NPO の活動に携わっています。ご本人曰く「森に入って遊んでます！」とのこと。また K さんは芸能コースのある高校に進学、アイドルなどを経験した後、卒業後の現在はアルバイトやカメラマンとしてのお仕事をされています。K さんは「アイドルと聞くといいねと思われがちですが、とてもハードな仕事で大変なこともたくさんありました」と語ってくださいました。

きっと、お二人が「自分らしい今」を手に入れるまで、きっと口には出せないほど辛い思いや周囲との軋轢、葛藤を経験したのだろうと思います。もちろん、若いお二人にとって今が人生の道半ばであることは言うまでもありません。

今日はお二人の前向きなそして自分らしい生き方をお聴きして、元気をもらって帰ることができました。

文：事務局　k・T